

年次活動報告書発刊に寄せて

熊本大学工学部では、平成12年度（2000年度）から毎年、本学部及び大学院自然科学研究科（工学系）の年次活動報告書（年報）を刊行して参りました。本年も、本学部評価情報専門委員会ならびに各学科のご尽力により、ここに第15号が完成いたしました。

本報告書には、平成26年度（2014年度）における教育、研究、社会貢献、管理運営など各分野における所属教員の多彩な活動の実績や、部局運営に関する組織としての取り組みを、フォーマットを固定し、時系列的にも比較が可能な形でまとめております。学外の方々に組織としての活動状況を的確にご理解いただき、大学運営について指導助言をいただくための情報公開が本報告書作成の目的ですが、同時に、教職員自らがその活動を客観的に振り返り、次期の活動を企画検討する際の資料として活用されることも意図しております。是非とも内容をご一覽いただき、ご活用いただけましたら幸甚に存じます。

さて、工学部及び自然科学研究科では、第二期の中期目標・中期計画期間（平成22～27年度）では、「研究拠点大学を目指し、国際化を推進する」とした本学の目標に沿って、また第一期の成果を踏まえて、教育研究、社会貢献、さらには管理運営に新たな息吹を吹き込むべく活動を展開しております。

教育面では、6つの学科が外部審査機関からISO14001やJABEEなどの国際水準の教育プログラムの認定を継続して教育の質を保証する取り組みを行っています。ものづくり教育では、「革新ものづくり展開力の協働教育事業」（平成23～26年度）により、これまでの体感型授業や問題発見・解決型授業の開発・拡充の他に、学部、学年、学内、国内の枠を越えて、協働し、競争するものづくり教育を実践しています。例を挙げますと、韓国東亜大学と協働してスタートさせました国際混成ものづくり教育プロジェクトは、ユニークな取り組みとして全国の大学から注目されています。また、平成26年度に熊本大学はスーパーグローバル大学（Super Global University, SGU）に採択されました。これにより、教養教育を全面英語化で教育するに「グローバルカレッジ」を設立し、各学部もグローバル化を推進するために「工学部グローバル教育コース」を設ける予定になっています。すでに工学部内には国際化を意識して、Nativeによる気軽な英会話実践教室（Evening English Class, EEC）や学期毎に実施される英語外部試験（TOEIC-IP）をスタートさせています。将来的には、学生諸君が外部コンテストや海外研修等に積極的に参加するようになり、グローバルな視野を持つ学生になることを期待しています。

研究面では、平成25年度に文部科学省から「研究拠点大学（全国22研究機関、RU22）」として認められ、様々な研究が活発に展開されています。それを牽引しているのが、「パルスパワー科学研究所」や「先進マグネシウム合金国際研究センター」で、国際的にも高く評価されています。さらに、自然科学研究科には「減災型社会システム実践研究教育センター」も設置され、地域の災害時における拠点となることを目指しています。これらに続く研究グループとして、5つの研究コア（大学院自然科学研究科）に対して助成を行い、さらには工学部に若手研究者を育てる革新研究加速化研究助成制度（年間4件）を設けています。

最後になりますが、大学には今、中教審答申や大学実行プランに述べられているように、様々な面での改革が求められ、学部学科の強みや特徴を活かしたグローバルに活躍できる人材の育成や社会的な役割を果たすことが期待されています。この一貫として工学部はミッションの再定義を公開しました。これまでの実績や蓄積を踏まえて、その教育力や研究力に一層の磨きをかけ、世界水準の教育と国際的に卓越した研究の実践に努力したいと思っております。今後とも、本学部ならびに本学の活動に対し、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年8月

熊本大学工学部長 村山 伸樹